

**製品名: TFII-I (リン酸化 Tyr248) ウサギポリクローナル抗体**

**カタログ番号: APRab05547**

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	115kDa

## 抗原情報

遺伝子名	GTF2I
別名	GTF2I; BAP135; WBSCR6; General transcription factor II-I; GTFII-I; TFII-I; Bruton tyrosine kinase-associated protein 135; BAP-135; BTK-associated protein 135; SRF-Phox1-interacting protein; SPIN; Williams-Beuren syndrome chromosomal region
遺伝子 ID	2969.0
SwissProt ID	P78347
免疫原	抗血清は、ヒト TFII-I の Tyr248 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 214-263

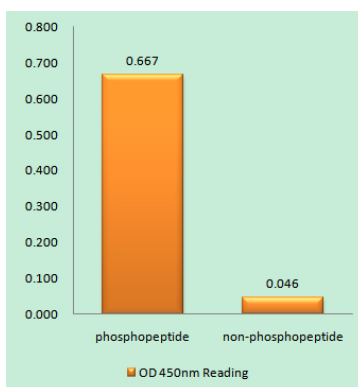
## 背景

一般転写因子 Ili(GTF2I) Homo sapiens この遺伝子は、6つの特徴的な繰り返しモチーフを含むリン酸化タンパク質をコードしています。コードされているタンパク質は、プロモーター内のイニシエーターエレメント(Inr)およびEボックスエレメントに結合し、転写の調節因子として機能します。この遺伝子座は、他のいくつかの近隣遺伝子とともに、ウィリアムズ・ボイレン症候群で欠失しています。この遺伝子には、7番染色体上に密接に関連した遺伝子と疑似遺伝子が多数存在します。この遺伝子は、9、13、および21番染色体にも疑似遺伝子を持っています。複数のアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが観察されています。[RefSeq 提供、2013年7月]、疾患: GTF2I のハプロ不全は、ウィリアムズ・ボイレン症候群 (WBS) というまれな発達障害で観察される特定の心血管系および筋骨格系の異常の原因である可能性があります。これは、染色体バンド 7q11.23 由来の遺伝子が関与する連続遺伝子欠失症候群です。機能: C-FOS プロモーターにおける多タンパク質複合体の形成を調整し、特異的なシグナル応答性活性化因子複合体を連結することにより、基礎転写機構と相互作用します。SRF と PHOX1 の安定した高次複合体の形成を促進し、PHOX1 と協調的に相互作用することで、C-FOS 血清応答エレメント (SRE) 由来のレポーター遺伝子の血清誘導性転写を促進します。ピリミジンリッチイニシエーター (Inr) と上流の E ボックスという 2 つのプロモーターエレメントに独立して結合することにより、USF1 の共調節因子として機能します。機能的な ARID3A DNA 結合複合体の形成、および B リンパ球活性化時の免疫グロブリン重鎖転写の活性化に必要です。PTM:SUMO 化されています。PTM:B 細胞受容体刺激に反応して、BTK によってチロシン残基が一時的にリン酸化されます。Tyr-248 および Tyr-398、そしておそらく Tyr-503 のリン酸化は、BTK を介した転写活性化に寄与します。類似性:TFII-I ファミリーに属します。類似性:6 つの GTF2I 様リピートを含みます。細胞内局在:細胞質内で BTK と共局在します。サブユニット:ホモ二量体 (潜在的)。SRF および PHOX1 と相互作用します。ピリミジンに富む開始因子 (Inr) および上流刺激因子 1 (USF1) の認識部位 (E ボックス) に結合します。プルトン型チロシンキナーゼ (BTK) の PH ドメインと会合する。HDAC1、HDAC2、HMG20B/BRAF35、AOF2/LSD1、RCOR1/CoREST、PHF21A/BHC80、ZMYM2、ZNF217、ZMYM3、GSE1、GTF2I を含む BHC ヒストン脱アセチル化酵素複合体の構成要素である可能性がある。BTK および ARID3A と相互作用する。組織特異性: 普遍的。アイソフォーム 1 は胎児脳で強く発現し、成体脳、筋、リンパ芽球では弱く発現し、その他の成体組織ではほとんど検出されない。一方、他のアイソフォームは全ての成体組織で等しく発現している。

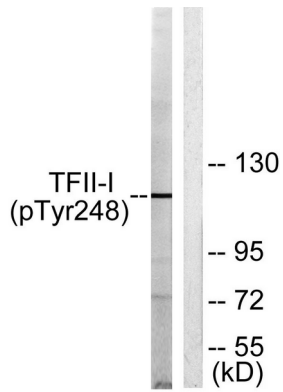
## 研究分野

基礎転写因子;

## 画像データ



TFII-I (リン酸化 Tyr248) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



TFII-I (リン酸化 Tyr248) 抗体を用いた LOVO 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。